

スクーリング授業コード	PH2010AV	
授業科目名	ソルフェージュ1	
担当教員名	岡本 泰寛	
授業の概要・教育目標	音楽性豊かな表現をするための基礎的能力を養うために欠かせないソルフェージュの学習を、演習形式で多角的に展開してゆく。音程・リズム・フレーズ等、楽譜を見て歌うことができる力、すなわち正確な読譜力、音楽を形作っている要素を聞きとる聴取力、さらに記譜の能力などを併せて養成する。	
授業計画	第1回	楽譜の知識(1) 基本的な読譜法
	第2回	コールユーブンゲン 正しい音程(1)No. 23-25
	第3回	コールユーブンゲン 正しい音程(2)No. 26-28
	第4回	コールユーブンゲン 正しい音程(3)No. 29-32
	第5回	コールユーブンゲン 正しい音程(4)No. 33-36
	第6回	コールユーブンゲン リズムの変化の混用(1)No. 37-39
	第7回	コールユーブンゲン リズムの変化の混用(2)No. 40-42
	第8回	コールユーブンゲン リズムの変化の混用(3)No. 43-45
	第9回	楽譜の知識(2) 速度記号と楽語
	第10回	コールユーブンゲン 調の関係の学習(1)No. 46-48
	第11回	コールユーブンゲン 調の関係の学習(2)No. 49-51
	第12回	コールユーブンゲン 調の関係の学習(3)No. 52-55
	第13回	コールユーブンゲン 調の関係の学習(4)No. 56-59
	第14回	コールユーブンゲン ト音記号とヘ音記号
	第15回	まとめ
学生の行動目標・到達目標	楽譜の知識を身につけ、音程・リズム・フレーズのプレス等、正しく楽譜を見て歌うことができるようになる。	
使用テキスト・持ち物等 (※用意が必須なもの)	楽典 理論と実習／石桁真礼生 音楽之友社	
参考書・参考資料等 (必須ではないがあると望ましいもの)	プリントを配布	
評価基準	試験80%、授業演習状況・出席20%	
その他学習上の助言等		

スクーリング授業コード	PH2020AV	
授業科目名	ソルフェージュ2	
担当教員名	岡本 泰寛	
授業の概要・教育目標	音楽性豊かな表現するための基礎的能力を養うために欠かせないソルフェージュの学習を演習形式で一層高める。正確に楽譜を見て歌う読譜力を伸ばし、曲の構成や美しさを感じ、音楽の持つ味わいをより深く読み取ることを重視する。	
授業計画	第1回	呼吸と強弱
	第2回	旋律とカンタービレ
	第3回	リズムと拍子
	第4回	クレッシェンドとディミヌエンドと転調
	第5回	リズムと伴奏の調和
	第6回	スタッカートとメッツァボーチェ
	第7回	ドルチェとカンタービレ
	第8回	総合的な表現(アーティキレーションを中心に)
	第9回	総合的な表現(アクセントとスタッカート)
	第10回	総合的な表現(拍子)
	第11回	総合的な表現(フレーズ)
	第12回	総合的な表現(楽段)
	第13回	総合的な表現(形式ABA)
	第14回	総合的な表現(その他の形式)
	第15回	まとめ
学生の行動目標・到達目標	曲の持つ味わいを感じながら、音楽性豊かな表現力を身につけるとともにより良く読むことができるようになる。	
使用テキスト・持ち物等 (※用意が必須なもの)	楽典 理論と実習／石桁真礼生 音楽之友社	
参考書・参考資料等 (必須ではないがあると望ましいもの)		
評価基準	試験80%、授業演習状況・出席率20%	
その他学習上の助言等		

スクーリング授業コード	PH2030AV / PH20301V	
授業科目名	声楽・歌唱1	
担当教員名	岡本 泰寛	
授業の概要・教育目標	歌唱に必要な肉体的機能、音声学的知識を学ぶ。発声の基本となる呼吸法・体の使い方・共鳴法などを演習形式で学ぶとともに、楽曲の表現内容を明確化し、歌唱と音楽的な表現をどのように結び付けていくか、その方法を習得する。	
授業計画	第1回	発声における基本的な体の使い方。
	第2回	発音・母音と子音
	第3回	三度・四度音程の移行
	第4回	五度・六度音程の移行
	第5回	七度・オクターブの移行
	第6回	半音階の歌唱方
	第7回	シンコペーション
	第8回	速いパッセージ(メリスマ)の歌唱方
	第9回	前打音
	第10回	装飾音
	第11回	ターン
	第12回	トリル
	第13回	ポルタメント
	第14回	レチタティーボ
	第15回	まとめ
学生の行動目標・到達目標	呼吸法、共鳴法を学び、正しく美しい発声で音楽的に楽曲を歌うことができる。	
使用テキスト・持ち物等 (※用意が必須なもの)	イタリア歌曲集(1)/畑中良輔(全音楽譜出版社)/1890円	
参考書・参考資料等 (必須ではないがあると望ましいもの)		
評価基準	歌唱演奏試験80%、授業演習状況・出席率20%	
その他学習上の助言等		

スクーリング授業コード	PH20401V	
授業科目名	声楽・歌唱2	
担当教員名	岡本 泰寛	
授業の概要・教育目標	この授業では発声の基本である姿勢・呼吸法・共鳴法を重視し、言葉への感覚、声に対する感性を高める。さらに発音・発声に留まらず、歌詞や曲想にふさわしい表現を伴った歌唱を演習形式で習得する。	
授業計画	第1回	イタリア語の発音(子音・母音)
	第2回	イタリア古典歌曲(1)
	第3回	イタリア古典歌曲(2)
	第4回	イタリア古典歌曲(3)
	第5回	イタリア古典歌曲(4)
	第6回	ドイツ語の発音(子音・母音)
	第7回	ドイツリート(1)
	第8回	ドイツリート(2)
	第9回	ドイツリート(3)
	第10回	日本歌曲(1)
	第11回	日本歌曲(2)
	第12回	オペラアリア(1)
	第13回	オペラアリア(2)
	第14回	オペラアリア(3)
	第15回	まとめ
学生の行動目標・到達目標	発声の充実と基礎的芸術歌曲の学習を行い、美しい発声と豊かな音楽性で、日本語、イタリア語、ドイツ語による歌をまんべんなく歌えるようになる。	
使用テキスト・持ち物等 (※用意が必須なもの)	学生の進行度に応じて、学ぶ曲の譜面をその都度参考資料として配布。	
参考書・参考資料等 (必須ではないがあると望ましいもの)		
評価基準	歌唱演奏試験80%、授業演習状況・出席率20%	
その他学習上の助言等		

スクーリング授業コード	PH3010AV / PH30101V	
授業科目名	声楽・歌唱3	
担当教員名	岡本 泰寛	
授業の概要・教育目標	<p>声楽・歌唱2の履修によって得た発声を更に伸ばし、言語の発音等これまで習得した技術を応用し、歌唱体験で培われた諸能力を生かしてより一層充実した豊かな歌唱表現を追究する。さらに、楽譜から作曲家の意図を把握するとともに音程と言葉がどのように結びついているかを感じ取り、創造力を高めながら豊かな表現について学ぶ。</p>	
授業計画	第1回	古典派作曲家作品1(言葉・旋律)
	第2回	古典派作曲家作品2(音程・フレーズ)
	第3回	古典派作曲家作品3(アーティキレーション)
	第4回	古典派作曲家作品4(強弱)
	第5回	前期ロマン派作品1(言葉・旋律)
	第6回	前期ロマン派作品2(音程・フレーズ)
	第7回	前期ロマン派作品3(アーティキレーション)
	第8回	前期ロマン派作品4(強弱)
	第9回	後期ロマン派作品1(言葉・旋律)
	第10回	後期ロマン派作品2(音程・フレーズ)
	第11回	後期ロマン派作品3(アーティキレーション)
	第12回	後期ロマン派作品4(強弱)
	第13回	アンサンブル(他の声部とのリズムを感じて)
	第14回	アンサンブル2(他の声部とのハーモニーを感じて)
	第15回	まとめ
学生の行動目標・到達目標	<p>発声の基本である正しい声の出し方、良く共鳴した声、正しい呼吸法を学び、言語の発音と言葉を音楽化する能力を高め、日本歌曲、外国語歌曲ともにレパートリーをふやすことができるようになる。</p>	
使用テキスト・持ち物等 (※用意が必須なもの)	古典イタリア歌曲集(声楽2で使用したもの)	
参考書・参考資料等 (必須ではないがあると望ましいもの)	プリントを配布予定	
評価基準	歌唱演奏試験80%、授業演習状況20%	
その他学習上の助言等		

スクーリング授業コード	PH2052AV	
授業科目名	ピアノ1	
担当教員名	関 洋子	
授業の概要・教育目標	ピアノ演奏の基本的な技術を習得し、個々の作品の様式を理解し、作品研究に基づいて演奏する。	
授業計画	第1回	授業のガイダンス
	第2回	音階、練習曲等(正確な読譜、技術的な練習方法)
	第3回	バロック時代の作品(楽曲分析)
	第4回	バロック時代の作品(合理的な指使い)
	第5回	バロック時代の作品(多声の弾き分け)
	第6回	古典派の作品(楽曲分析)
	第7回	古典派の作品(色々な形式)
	第8回	古典派の作品(拍子、テンポ感の養成)
	第9回	古典派の作品(メロディと伴奏のバランス)
	第10回	ロマン派以降の作品(楽曲分析)
	第11回	ロマン派以降の作品(タッチについて)
	第12回	ロマン派以降の作品(曲想、音色について)
	第13回	ロマン派以降の作品(ペダルの使い方)
	第14回	まとめ
	第15回	演奏発表
学生の行動目標・到達目標	それぞれのレベルに応じた楽曲を用い、個々のピアノ作品の様式を理解して、演奏技術、表現力を高める。	
使用テキスト・持ち物等 (※用意が必須なもの)	初回の授業で相談の上、指示する。必要に応じてプリント等の資料を配布する。	
参考書・参考資料等 (必須ではないがあると望ましいもの)		
評価基準	毎回の学習状況(60%)、演奏発表(40%)を総合して評価する。	
その他学習上の助言等	取得希望免許や目的にあわせたレッスンを行いますのでご相談下さい。	

スクーリング授業コード	PH20621V/PH20601V	
授業科目名	ピアノ2 / 器楽2	
担当教員名	関 洋子	
授業の概要・教育目標	取得希望免許に応じて、必要な歌唱教材曲のピアノ伴奏に取り組む。また、ピアノ4手用の作品等も演奏し、アンサンブルの基礎を学び、伴奏にも活かせるようにする。	
授業計画	第1回	授業のガイダンス
	第2回	独奏と伴奏の違い
	第3回	歌詞、詩の理解
	第4回	歌の旋律を把握する
	第5回	形式、転調等
	第6回	曲想、音色等の表現
	第7回	タッチについて
	第8回	ペダルの使い方
	第9回	歌の旋律とピアノ伴奏部のバランス
	第10回	ピアノ連弾、及び2台ピアノのための作品(楽曲分析)
	第11回	ピアノ連弾、及び2台ピアノのための作品(各パートの個人練習)
	第12回	ピアノ連弾、及び2台ピアノのための作品(全体のバランスを考える)
	第13回	ピアノ連弾、及び2台ピアノのための作品(アンサンブルを楽しむ)
	第14回	まとめ
	第15回	演奏発表
学生の行動目標・到達目標	小学校、中学校、高等学校の実践的な場を想定し、歌唱曲を中心にピアノ伴奏の表現力を高める。受講者と相談の上、日本歌曲、イタリア歌曲、ドイツ・リート、フランス歌曲等のピアノ伴奏も扱い、より芸術的な演奏を目指す。	
使用テキスト・持ち物等 (※用意が必須なもの)	初回の授業で相談の上、指示する。必要に応じてプリント等の資料を配布する。	
参考書・参考資料等 (必須ではないがあると望ましいもの)	『歌唱教材曲で学ぶ音楽のしくみ』関 洋子(カワイ出版)	
評価基準	毎回の学習状況(60%)、演奏発表(40%)を総合して評価する。	
その他学習上の助言等	取得希望免許や目的にあわせたレッスンを行いますのでご相談下さい。	

スクーリング授業コード		PH3022AV / PH30221V / PH30201V
授業科目名		吹奏楽
担当教員名		玉寄 勝治
授業の概要・教育目標		吹奏楽に含まれる楽器の基礎奏法を習得する。 金管バンド、吹奏楽、鼓笛隊の基礎的な合奏法を学習する。 各楽器の取り扱い方法と基本的な指導法を習得する。
授業計画	第1回	ガイダンス 基礎知識、基礎技術の確認
	第2回	吹奏楽の楽器構成 セッティング
	第3回	管楽器基礎奏法 アンブッシュア
	第4回	管楽器基礎奏法 バズィング マウスピース
	第5回	管楽器基礎奏法 プレスコントロール
	第6回	打楽器基礎奏法
	第7回	バンドメソッドと指導用機器類の説明
	第8回	吹奏楽合奏指導 基礎合奏①
	第9回	吹奏楽合奏指導 基礎合奏②
	第10回	吹奏楽合奏指導 基礎合奏③
	第11回	吹奏楽合奏指導 楽曲合奏① 外国の吹奏楽作品
	第12回	吹奏楽合奏指導 楽曲合奏② 外国の吹奏楽作品
	第13回	吹奏楽合奏指導 楽曲合奏③ 邦人作曲家の作品
	第14回	吹奏楽合奏指導 楽曲合奏④ 邦人作曲家の作品
	第15回	まとめと試験
学生の行動目標・到達目標		小学校、中学校などの学校や地域にある金管バンドや吹奏楽の基礎奏法指導、合奏指導をするための基礎的な知識、技術を身に付ける。
使用テキスト・持ち物等 (※用意が必須なもの)		特になし
参考書・参考資料等 (必須ではないがあると望ましいもの)		教科書:トロンボーンと金管楽器奏者のためのバイブル・教則本「オートマチック エコ奏法」/ 金澤 茂/1000円  トロンボーンと金管楽器奏者のためのバイブル・教則本「オートマチック エコ奏法」金澤茂 著 玉寄勝治 監修・ヤマハミュージックメディア『JCBバンドスタディー指導書』・吹奏楽・金 管バンド・マーチング等の視聴覚資料(DVD)・授業ごとに配布するプリント、以上を用いる。
評価基準		授業演習状況30%、筆記試験20%、実技試験(および指導技能試験)50%、の割合で評価する。
その他学習上の助言等		演奏楽器はこちらで用意しますが、吹奏楽、金管バンドの経験があり楽器を持っている方は持参しても構いません。全回出席し、積極的に取り組んでください。

スクーリング授業コード		PH3032AV/PH30321V/PH30301V	
授業科目名		和楽器1 / 器楽4 (和楽器)	
担当教員名		長谷川 将也	
授業の概要・教育目標		和楽器指導に必要な日本音楽のポイントを理解し、教材としての和楽器を扱うことができるようになる。 箏の基本演奏から始まり、他の和楽器との合奏ができるようになる。 箏や尺八の鑑賞を通じて、日本音楽の本質を知る。	
授業計画	第1回	4月15日	ガイダンス
	第2回		箏実技1 箏の基本奏法、日本古謡「さくら」を弾く
	第3回	4月22日	箏実技2 日本古謡「さくら」を弾く
	第4回		鑑賞1 (箏の古典作品)
	第5回	5月20日	箏実技3 箏曲「六段」を弾く
	第6回		箏実技4 箏曲「六段」を弾く
	第7回	5月27日	合奏1 箏曲「六段」を合奏する
	第8回		鑑賞2 (箏の現代作品)
	第9回	6月24日	箏実技5 箏曲「春の海」を弾く
	第10回		箏実技6 箏曲「春の海」を弾く
	第11回	7月1日	合奏2 箏曲「春の海」を合奏する
	第12回		鑑賞3 (邦楽器を用いた現代作品)
	第13回	7月22日	合奏練習 箏曲「春の海」を合奏する
	第14回		合奏発表 箏曲「春の海」を合奏する
	第15回		鑑賞4 (尺八の演奏)、まとめ
学生の行動目標・到達目標		我が国の伝統音楽の学習には、和楽器の指導を通じて子どもたちに「和の感性」を伝えていくことが求められる。 本授業を履修することが、広く日本の伝統文化に理解を深めるきっかけとなることを望む。 楽器の習得には各楽器の基礎知識を理解することが不可欠であるため、実技と並行してポイントを捕らえた授業記録を作成すること。	
使用テキスト・持ち物等 (※用意が必須なもの)		適宜資料を配付。	
参考書・参考資料等 (必須ではないがあると望ましいもの)			
評価基準		授業最終回の演奏発表の成果を中心に(30%)、受講態度(40%)、適宜行う課題提出(20%)、授業記録シート(初回配布)の記入(10%)の状況を加味して評価を行う。	
その他学習上の助言等		出席はもとより、遅刻なく十分な授業時間活用を心がけること。 楽器、附属品の正しい取り扱い方を身につけ、破損の無いよう細心の注意を払うこと。 また、履修期間中には努めて邦楽を鑑賞する機会をもつこと。	

スクーリング授業コード	PH30501V/PH3050AV		
授業科目名	作曲・編曲法2（応用）		
担当教員名	生田 美子		
授業の概要・教育目標	音楽科教育に必要な四声体和声・楽曲分析・編曲・作曲の技能の習得。（1）和声・楽曲分析・編曲・作曲に関する講義。（2）個別の課題指導による和声・楽曲分析・編曲・作曲の実習。（3）楽曲分析・作品の発表		
授業計画	4月15日（土）	第1回	和声の予備知識
	〃	第2回	基本位置3和音の連結
	4月22日（土）	第3回	様々な調の課題
	〃	第4回	3和音の第1転回、第2転回位置の連結、属七の和音の連結
	5月13日（土）	第5回	借用和音（副属和音、準固有和音）の概説、その他の和声進行
	5月20日（土）	第6回	楽曲分析
	〃	第7回	音楽科教育における作曲・編曲の概説
	6月3日（土）	第8回	編曲演習
	〃	第9回	作曲演習（1）
	〃	第10回	作曲演習（2）
	7月1日（土）	第11回	実演に向けて（1）
	〃	第12回	実演に向けて（2）
	7月15日（土）	第13回	実演に向けて（3）
	〃	第14回	楽曲分析発表
	〃	第15回	作品発表および意見交換
学生の行動目標・到達目標	和声・楽曲分析・作曲・編曲の技能を習得し、音楽科教育で活用できるような応用力をつける。		
使用テキスト・持ち物等 （※用意が必須なもの）	五線紙、筆記用具（2B鉛筆、消しゴム、定規）		
参考書・参考資料等 （必須ではないがあると望ましいもの）	「和声 理論と実習」I、II巻（島岡譲他、音楽之友社）、授業内で適宜指示する。		
評価基準	課題の提出状況と、授業への取り組み方を総合的にみて評価する。		
その他学習上の助言等	各学生のレベルと希望に応じて課題を設定し、実習していきます。課題には積極的に取り組んで下さい。		